

これからの千葉県立図書館について

○基本理念

○県立図書館の役割と機能

これからの千葉県立図書館

■ 基本理念

- 県立図書館は、知識と情報が飛躍的に重要性を増す知識基盤社会において、くらし満足度日本一を実現するため、光り輝く千葉県を目指す知の拠点として、中核的公立図書館の重要な役割を担っている。
- 知識や情報の収集・発信の拠点として、豊富かつ幅広い図書館資料を整備して知の集積を図り、すべての県民が、生涯にわたり豊かな文字・活字文化の恵沢を享受できるようにしなければならない。
- そして、自ら考え判断するための知識や情報を利用できるよう、等しく良質な図書館サービスを提供することにより、人づくりや知の基盤づくりに貢献し、本県の経済・産業・文化・教育などの発展に寄与する。

■ 県立図書館の役割と機能

§ 県内図書館の中核としての役割

- 充実した図書館サービスを住民に提供できるよう、県立図書館資料の協力貸出しや職員研修の受講機会の提供などにより、市町村立図書館の運営を支援する。
- 図書館未設置市町村に対しては、住民の読書環境の向上が図られるように支援する中で、図書館設置の意義について理解を求める。

市町村の読書環境の充実のための支援

- ・充実した図書館サービスを提供できるよう、図書館未設置市町村における公民館図書室などを含めた市町村立図書館を対象として、図書館ネットワークによる県立図書館資料の図書館間貸出しや、レファレンスの協力、運営相談などの支援を行う。
- ・市町村立図書館を定期的に訪問し、図書館の管理運営やサービスに関する助言を行うとともに、図書館未設置市町村に対しては図書館設置の意義について理解を求めていく。
- ・県公共図書館協会などを通じて、市町村立図書館と密接な連携を図り、資料の相互貸借や人材養成支援などにより、図書館サービスの維持・向上と、県内図書館ネットワークの機能強化を図っていく。

図書館職員の研修センター

- ・ 図書館職員の資質の向上を目的に、研修の受講機会を提供し、図書館サービスに対するニーズを的確に把握できる人材を養成し、サービスの維持・向上を目指す。
- ・ 情報通信技術の進歩やデジタル情報の増加などに応じた図書館サービスを提供していくため、国や他の自治体の先進事例などを参考としながら、研修プログラムの内容を絶えず見直すことで、効果的な人材養成に努める。
- ・ 市町村からの求めに応じて、県立図書館で市町村職員を受け入れる。

県内図書館ネットワークの拠点

- ・ 県民への資料提供サービスの迅速化を図るため、図書館協力車の巡回コースや資料の搬送方法を再検討し、サービス改善を目指す。
- ・ 図書館ネットワークの発展のため、市町村立図書館などの職員が相互に情報交換を行い自施設の運営の参考となる情報を得る機会を増やすとともに、協力貸出・相互貸借についての理解の浸透を図る。
- ・ 県民がいつでも必要な資料を簡単に利用できるよう、市町村立図書館で毎年除籍される資料のうち、県立図書館で所蔵していない資料は、県内で最低1冊は保存できる体制づくりを進める。

§ 子どもの読書活動の推進

- 「千葉県子どもの読書活動推進計画（第三次）」に基づく施策を率先して展開し、子どもの読書活動や、公立図書館と学校図書館との連携を推進する。

子どもの読書活動の推進拠点

- ・ 子どもの読書活動の推進に向け、児童サービスに習熟した職員を配置し、組織体制の充実を図ります。また、県立図書館の専門職員を市町村立図書館などに派遣し、読み聞かせなどの講座を開催するなど、子どもの読書環境の充実を図る。
- ・ 出張お話し会や点訳絵本の製作など、図書館の利用が困難な子どもを対象とした読書支援サービスを充実させるとともに、子どもの読書活動を支える県内のサークルやボランティア団体などの支援・養成を行う。

- ・自立した大人となる中・高校生の時期に大切な、進路選択や生き方などの多様なテーマとの出会いを、読書を通じて支援する、ヤングアダルト(ティーンズ)サービスの充実を図る。

学校図書館の支援

- ・県立学校への講師派遣や、学校図書館の運営相談を強化するとともに、市町村教育委員会の要請に応じ、小・中学校への講師派遣や学校図書館の運営相談を行う。
- ・障害などの理由により、図書館利用や読書活動が困難な児童・生徒の在学する学校を訪問し、これら児童・生徒の読書活動に関わる教職員、保護者及びボランティアの支援を行う。
- ・公立図書館と学校図書館との連携の強化と、学校図書館の支援体制の充実を図る。

§ 課題解決支援図書館

- 多様な情報を迅速かつ的確に提供し、県民が抱える様々な課題を解決できるよう支援する。
- 関係機関と連携し、県内企業や行政機関の調査研究や政策形成のために必要な情報を収集・提供する。

調査研究や政策形成の支援

- ・県民や県内企業、団体へ、生活や仕事に役に立つ情報拠点として図書館が活用できることを積極的に周知する。
- ・健康・医療や福祉、ビジネス、法律・判例などの県民が抱える課題や、まちづくりや地域振興など地域の課題への迅速な調査・情報支援のための体制を整備するとともに、それらに対応できる司書を養成する。
- ・博物館や文書館、議会図書室などの関係機関との連携を強化し、それぞれの機能を相互に補完しつつ、課題解決のため、よりの確な支援の充実に努める。
- ・県や市町村の政策決定や行政事務に必要な資料及び情報を収集・提供できるよう努める。

調査研究に役立つ資料の収集と情報の提供

- ・住民の身近にある市町村立図書館との間で、収集する資料の分担を明確にし、県立図書館として必要な調査研究に役立つ資料を収集し、蔵書の充実を図る。
- ・オンラインデータベースなどの県民の情報に対する多様なニーズに応えられる環境を整備する。

§ 千葉県に関する資料や情報の蓄積、継承

- 本県の文化・歴史を次世代に継承していくため、貴重資料をはじめ、将来にわたって残すべき資料の保存体制の整備と、資料のデジタル化を推進する。

千葉県関係資料の計画的な収集の整備と情報発信

- ・市町村立図書館や博物館、文書館などの関係機関と連携し、役割分担を明確化した上で、デジタル情報、視聴覚資料などを含めた千葉県関係資料を計画的に収集できる仕組みを構築する。
- ・国のデジタルアーカイブに係る議論の動向を注視しつつ、博物館や文書館、大学図書館などの関係機関との連携により、県内の蔵書を一括して検索できるシステムの構築を目指す。
- ・千葉県関係資料の検索・情報提供サービスについて、ホームページや様々な広報媒体を活用して積極的に情報発信し、利用の促進に努める。

貴重資料の保存

- ・本県ゆかりの作家や本県を舞台とした作品などの貴重な資料を保存します。
- ・著作権法などの法令や制度を検証し、国や関係団体の動向を把握しながら、資料のデジタル化を進めることにより、インターネットを活用した利便性の向上や、災害などによる消失に備える。

§ 知の創造と循環を生み出す公共の場

- 知識基盤社会におけるこれからの図書館は、人々の知識を相互に交流させ、新たな知の創造や課題解決のために資料・情報を提供することが求められている。
- 資料を用いて自律的に学ぶ場、自らの学びの成果を報告する場、関心を共有する人が

集まり討議する場となるよう、県民の知の創造と循環に貢献する公共の場を目指す。

○資料・情報を収集・蓄積し、体系的に提供して、県民の情報活用と社会全体の教育力の向上に貢献する。

博物館など関係機関との連携

- ・MLA連携（博物館－図書館－文書館）や大学図書館などとの連携により、文化的情報資源（知識、資料など）を収集、蓄積、提供し活用していくため、更なる図書館職員の専門知識の向上や、関係機関相互の協力を図る。
- ・博物館や文書館などとの協同事業や連携体制を充実させ、各々の施設の独自性や特徴を尊重しつつ、それぞれの施設の利用者サービスの向上の観点から、施設の複合化の可能性を検討する。
- ・大学図書館や研究機関などとの連携強化を図り、県民が利用できる文化的情報資源を拡充し、多様な学習ニーズに対応する。

すべての県民が利用しやすく安全で明るく快適な社会教育施設

- ・高齢者や視覚障害者などの読書活動・生涯学習活動の支援を推進するため、文字の大きな活字本や拡大読書器の設置、音声録音図書や活字デジタル図書の整備などの読書環境の充実を図る。
- ・県民の学習意欲の向上や課題解決のための調査など、静謐な環境を要する個人学習と、ワークショップやグループ学習などの様々な学習形態とに対応できるよう、施設内の空間構成に配慮し、これらに資する情報機器の整備を図る。
- ・人と人との出会いや、新たな創造や思考が触発され、知的交流が自然に図れるような空間づくりを検討する。